

小学校国語科「読むこと」の授業における 感想文の研究

— 光村図書 3年生教材「まいごのかぎ」を使って —

古 川 元 視

A Study of Impression Essays in the “Reading” Lesson in the Elementary School
Japanese Class: Using the third-grade teaching material “*Maigo no kagi*”
by Mitsumura Toshio

Motomi FURUKAWA

【要 旨】

本研究は、小学3年生と短期大学生を対象に、国語科「読むこと」の光村図書小学3年生教材「まいごのかぎ」の授業における感想文の調査を実施し、その結果を分析・考察したものである。

学習指導要領においては、感想文を書くことは、「読むこと」の言語活動に位置付けられている。小学生も短期大学生も、「読むこと」において、物語を読んで感想文を書くということに苦手意識が高かった。原因としては、両者とも感想文の要素が分からない、主人公の気持ちの把握や気持ちの変化が分からないなどが挙げられた。これは、読解している時と感想文を書く時に隔たりがあり、それを繋ぐことが必要であること、感想文の要素を明確に示すことが必要である。

そこで、今回は、小学生に対しては、第2回目の感想文を書く際の方策として、「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」を活用した。そのことで、二次の読解を確認し、振り返ることができ、それが感想に繋がり、感想文を書く時の橋渡しの役割を果たした。また、感想文や構成のモデルを3種類用意することで、感想文や構成の書き方の幅が広がった。

【キーワード】

感想文、感想

1 はじめに

- (1) 児童期における読解力及び記述力の課題
児童期における読解力及び記述力の課題は、

次のようなことである。

- ① PISA 調査¹⁾が示した課題
- 読解力の問題で、日本の生徒の正答率が比較的低かった問題には、テキストから情報を探し出す問題やテキストの質と信ぴょう性を

評価する問題などがあつた。

- 記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明することに、引き続き課題がある。

② 令和3年度全国学力・学習状況調査²⁾が示した課題

- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて読むことについて、引き続き課題がある。

③ 中央教育審議会答申³⁾が示した課題

- 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、結果を分析して解釈・考察し説明したりすることに課題がある。

- 視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっている。

- 読書活動についても、受け身の読書体験にとどまっており、著者の考えや情報を読み解きながら自分の考えを形成していくという能動的な読書になっていない。教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もある。

④ 第65回学校読書調査⁴⁾が示した課題

- 2019年5月1ヶ月の平均読書冊数は、小学生が11.3冊であり、十分とは言えない。

- 5月1ヶ月間に読んだ本が0冊である「不読者」の割合は、小学生が8.8%であり、依然として高い。

これらを整理すると次のようになる。

【① 読解力の課題】 文章様式の特徴、文章の目的、筆者の意図などを推論してまとめることが十分ではない。また、文章の構造や一文の意味把握が難しいなどの課題がある。

【② 記述力の課題】 文章の内容・情報を根拠に、文章と関連する内容を統合することに課題がある。

【③ 読書力の課題】 読書量が毎年少なくなっており、不読者数も増加している。受け身の読書体験にとどまっている。情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かす経験が必要である。

(2) 読解力・記述力の課題と国語科「読むこと」の物語の授業における感想文

このような課題を生み出す要因の一つになっているのが、国語科の授業である。国語科の「読むこと」の物語の授業においては、言語活動が位置付けられている。その言語活動の一つに感想文がある。学習指導要領⁵⁾を見ると「感想などを伝え合う」「考えたことを伝え合う」などの言語活動が示されているにもかかわらず、次のような調査結果がある。

- オンライン書店「楽天ブックス」の2018年7月に全国の小学生の子どもをもつ保護者1000名に「小学生の夏休みの読書感想文に関する調査」⁶⁾を実施した結果、夏休みの宿題として読書感想文が課される割合は学年が上がるごとに増加し、小1では41.1%なのが、小6では73.4%である。母親が子どもの読書感想文で手伝うことは、「本選び」(47.2%)、「書き方指導」(40.9%)、「添削」(33.8%)である。

- ベネッセコーポレーションの通信教育講座「進研ゼミ小学講座」が、小学3～6年生の会員を対象に実施した「夏休みに関する小学生の意識調査」⁷⁾の結果、夏休みの宿題で一番大変だと思うのは「読書感想文」27%である。

このように授業において、児童は感想文を書くことを学んでいるにもかかわらず、感想文を書くということが苦手である児童が多いことがうかがえる。「書くこと」における読書感想文を書くということについては、様々な提案がされている。名塚⁸⁾は、低学年の実践として、「しつもんシート」を用いて本に関する質問をしながら読書感想文を書いていく実践を、中学年では「付箋」と「フィッシュボンチャート」を活用した読書感想文の実践を提案している。また、高島⁹⁾は、児童と対話しながら読書感想文を書くという方法を編み出している。しかし、それらは、「書くこと」での読書感想文の指導方法である。フィンランド国語教科書¹⁰⁾を見ると、「本を読む時には」で20の要素が示されている。「物語の主人公、場所、時間に注目しよう」「あらすじを自分のことばでまとめよ

う」など読解に関する要素と「登場人物と同じような経験をしたことがあるかな」「本の内容をもとにして質問を考えよう」など、感想と繋がるような要素である。井上¹¹⁾は、「読むこと」において、二次の教材文の読解部分で、「あなたなら、どんな言葉をかけますか。」「1の場面と4の場面の主人公の気持ちを比べましょう。」などという感想に繋がるような発問を位置付けている。

そこで、小学生における物語教材を用いた国語科の授業において、感想文を書くという授業を実施し、調査することにした。調査においては、一次においての初発の感想（物語を読んで初めて書いた感想文）と二次において、読解しながら感想をメモした後に書いた第2回目の感想を分析する。また、短期大学生にも同じ教材文を用いて、初発の感想を書いてもらい、分析をする。さらに、調査の成果と課題を踏まえて、授業のアイデアにも言及する。

2 調査の目的

次のようなことを目的として調査を行った。

- (1) 児童期の「読むこと」の物語の授業における感想文の傾向を探る。
 - ① 初発の感想文の傾向。
 - ② 二次においての第2回目の感想文の傾向。
 - ③ アンケートの分析。
- (2) 短期大学生を対象として同一教材を用いて書いた感想文の傾向を探る。
 - ① 初発の感想の傾向。
 - ② アンケートの分析。
- (3) 調査結果を踏まえて、物語の授業における感想文を書くための今後の展望を構想する。

3 調査の方法

(1) 調査対象

熊本県、福岡県の第3学年の児童58名、短期大学生41名 合計99名

(2) 調査時期

令和3年6～7月実施

(3) 使用した教材

光村図書3年「まいごのかぎ」

(4) 第3学年の児童に対する授業の実施

図1のような学習指導案を基にして、学級担任に依頼し、授業を実施してもらった。授業で使用した主なワークシートは、図2のとおりである。「ワークシート2」は、二次で読解時に使用するワークシートである。読解したことや感想を自分でまとめる働きをする。感想文のモデルとして3種類を提示したが、その一つが図3「感想文のモデル A」である。また、図4「感想文のモデル Aの構成モデル及び構成」は、「感想文のモデル A」を書くための構成のモデルとそれを参考にしながら書く構成のワークである。感想文と同様に3つの構成のモデルを示した。さらに、「感想語彙」についても配布し、感想を書く際に活用させた。

授業実施後、「初発の感想文」と「第2回目の感想文」「授業後のアンケート」(図5)は、郵送してもらった。

(5) 短期大学生による「まいごのかぎ」の初発の感想文及びアンケートの実施

短期大学生には、「まいごのかぎ」を読んだ直後、初発の感想文を書いてもらった。そして、アンケート(図6)に回答してもらった。

なお、調査の趣旨を説明し、協力できる短期大学生のみ回答してもらった。

4 小学3学年の「まいごのかぎ」の感想文とアンケートの結果及び考察

4.1 初発の感想文の結果と考察

(1) 初発の感想文の趣旨

図1の学習指導案のとおり、一次において、児童に教材文を読んでもらい、「初発の感想文」を書いてもらった。字数の制限も与えなかった。字数や感想の要素などを調査するためである。

(2) 初発の感想文の結果と考察

① 初発の感想文の字数

初発の感想の字数を調べた。結果は、次の表1のとおりである。

第3学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 ファンタジーを読んで、自分と比べて、感想を書こう。
- 2 教材名 まいごのかぎ、タブレット、あればロイロノート、ワークシート
- 3 単元の目標
 - 場面的変化によって、主人公の気持ちの変化をとらえ、感想文を書くことができる。
- 4 単元の評価規準
 - 主人公の性格を表す言葉を理解している。【知識・技能】
 - 場面的変化によって、主人公の気持ちの変化をとらえている。【思考・判断・表現】
 - ファンタジーの特徴である不思議な世界と現実の世界の行き来をとらえている。【思考・判断・表現】
 - ファンタジーの特徴をとらえ、自分の体験を踏まえ、自分と比べて感想文を書いている。【思考・判断・表現】
 - 粘り強く、場面的変化で変わる主人公の気持ちをとらえ、学習の見通しを持ち、感想文を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
- 5 単元の授業計画（全9時間）

	学習活動	指導上の留意点
一次 (1, 2)	①今まで書いた感想文を振り返り、どんな内容を書いたのかを整理する。 ②教材文を読み感想文を書き、書いた感想をまとめる。【初発の感想文】【原稿用紙】 ③初発の感想文をタブレットなどそのまま保存する。 ④学習課題「ファンタジーを読んで、自分の体験と比べて、感想文を書こう」を設定し、学習計画を話し合う。	○簡単に振り返る。 ○書ける分量でよいことにする。 ○感想文を書くことに苦手意識があることや困難点についてまとめさせる。 ○タブレットで保存できない時には、教師が集めて保存する。 ○学習計画は今までの学習計画を参考にさせる。
二次 (3, 4, 5, 6, 7, 8)	⑤教材文を読み、場所を手掛かりにして、ワークシートに線を引き、5つの場面に分ける。【ワークシート1】 ⑥教材文を読み、異界と現実との行き来のところに線を引き分ける。【ワークシート1】 ⑦冒頭部の第1場面を2つに分け、主人公「りいこ」の性格や気持ちをカード（付箋紙）に書き、整理をし、物語の冒頭部の役割について整理する。【ワークシート1】 ⑧「りいこ」がしょんぼりと帰っている時、かぎを見つけた時、桜の木、ベンチ、魚、バス停での不思議な出来事が起きた時の「りいこ」の行動や様子が分かるころをカード（付箋紙）に書き出し、気持ちの変化をまとめる。【ワークシート1】 ⑨「物語を読む時の観点」にしたがって付箋紙にメモしながら、再度、教材文を読む。【ワークシート2】 ⑩3つの感想文のモデルを読んで、構成について確認する。【感想文ア・イ・ウのモデル】 ⑪ワークシート2で書いた付箋紙から、数枚選びワークシートの構成の例を見ながら、付箋紙を選び、感想文の構成の欄に貼る。【ワークシート3】 ⑫「感想の言葉」の中から、使いたい感想語彙を選び、感想文を書く。【感想の言葉】【第2回目の感想文】	○今まで学習した「くじらぐも」などのファンタジー作品を参考にさせる。 ○冒頭部には、状況設定があることに気付かせる。 ○周りの友達の影響を受け、自信がなく、気持ちが落ち込んでいる→不思議がだんだん大きくなる→最後は、自分の好きなことをすればいいと自分を肯定できる気持ちに変化していることをとらえさせる。 ○書けるだけ付箋紙は書かせる。
三次 (課外)	⑬第2回目の感想文をタブレットなどで写し、教師やグループの友達に送り、相互評価をする。【評価表】 ⑭初発の感想文、第2回目の感想文をタブレットなどの画面に映し、比較をして、自己評価や単元のまとめをする。	○タブレットなどがない場合は、書いた感想文を使ってもよい。 ○タブレットに保存した2つの感想文は、持ち帰り保護者に読んでもらい、評価してもらう。

図1 国語科学習指導案

初発の感想文の字数は、301字～400字までが一番多く、29人で半数を占めた。一番少なくても、134字、一番多くて852字であった。

② 初発の感想文の要素

初発の感想には、どのようなことを書いているのかは、表2のとおりである。

一番多いのは、粗筋である。次は、「主人公の最初と最後の変化」「これからやってみよう」とである。感想文の要素の数が少なく、全く触れられていない要素が多いことが分かる。

これは、初発の感想であるためと考えられる

表2 初発の感想文の要素

感想の要素	人数	割合 (%)
1 粗筋	58	100
2 題名の感想	1	1
3 本との出会い	1	1
4 今まで読んだ本との比較	1	1
5 主人公の性格	0	0
6 主人公の成長	0	0
7 主人公の最初と最後の変化	9	16
8 自分の経験	2	3
9 自分が主人公だったら	0	0
10 これから活かしていきたいこと	4	7
11 今までになかった考え	1	1
12 これからやってみよう	7	12
13 その他	35	60

表1 初発の感想の字数

字数	人数	割合 (%)
0～100	0	0
101～200	5	9
201～300	7	13
301～400	29	50
401～500	10	17
501～600	5	9
601～700	0	0
701～800	1	1
801～900	1	1
901～1000	0	0
1001～1100	0	0
1101～1200	0	0

7	6	5	4	3	2	1
③のぶぶんで、りいこは、さくらの木にかきあなを見つけた。そのあとにどのようなかきあなが見つけたか。本文からとばをぬきだしてきましょう。	②のぶぶんで、りいこは、かきを見つけて、「あれこれ」と思いかべました。どんなことを思いかべたでしょうか。	②のぶぶんで、りいこは、何を見つけたか。	①のぶぶんで、ぼうせんがイから、りいこはどんなせいかくの子でもでしょうか。りいこのせいかくを書きましょう。	①の「はじめ」のぶぶんに「りいこは、うつむきかちなのです」「うつむきかち」とあります。どうしてうつむきかちで、しゃべりあるいてくるのかとめました。本文からだいたいじなとばをぬいて入れましょう。	「まいこのかき」のこうせい(くみたて)を書きましょう。	この「まいこのかき」のようしきは何ですか。(むかしはなし、ほんとうのはなし、ファンタジーなど)
円いあなを見つけた。↓ 「さくらの木にかきあなを見つけた。そのあとにどのようなかきあなが見つけたか。本文からとばをぬきだしてきましょう。」	「さくらの木にかきあなを見つけた。そのあとにどのようなかきあなが見つけたか。本文からとばをぬきだしてきましょう。」			りいこは、おとうみしたいなうしやがさびしかったので、 「をうけ足したが、友だちがわらったので、 「をうけした。」「をうけした。」「をうけした。」 悪いことをしたと思つたから。	主人公がこまったこと↓ 「さくらの木にかきあなを見つけた。そのあとにどのようなかきあなが見つけたか。本文からとばをぬきだしてきましょう。」 3 ↓ 「さくらの木にかきあなを見つけた。そのあとにどのようなかきあなが見つけたか。本文からとばをぬきだしてきましょう。」 4 ↓	「まいこのかき」を読んで、ぜんぶのしつもんにとたましましょう。 感想文を書くためにメモをしよう。

ワークシート2 月 日 () この学習をはじめて、

名前

時間目

図2 読解したことや感想のメモ [ワークシート2]

おわり	なか	はじめ	★一番言いたいこと 50 字くらい	
⑥主人公がせいよいよしたこ と・カモメのおかげでせい ちようした。がんばりたい。	③主人公のせいかく・やさし い ④じぶんのけいけん・にじ ゆうとび ★⑤今まで読んだ本のちが い・「白いぼうし」は、主人 公ががんばる話ではなかった	①だいたい読んでの感そ う・びつくり、何だ。 ②今まで読んだ本とくらべ て・主人公の名前	ワタルががんばる子どもになっ たこと。私は何でもちゆうで なげだしてしまふ。がんばる気 持ちをもちたい。	感そう文アのくみたて(れい)
				自分の感そう文のくみたて

一 読書感そ文のくみたてを考えましよう。感そう文アのくみたてのれいをきんこうにして、じぶんの感そう文のく
みたてを考えましよう。★はかならずかきましよう。ふせんしに書いてはましよう。ぬきだしたいところには線をひきま
ましよう。

こうせいア 月 日 () () この学書をはじめて【】時間日

図4 感想文のモデル アの構成モデル及び構成〔ワークシート3〕

「まいごのかぎ」の感想文についてのアンケート

【】学校 3 年【】組 名前【】

このアンケートは、テストではありません。自分が思ったことや考えたことを書いてください。しつもんは、ぜんぶで3 もあります。さいごまでしつもんにごたえましよう。

1 【感そう文1】は、「まいごのかぎ」を読んで、すぐに書きました。
① げんこうようしでなんまい書きましたか。【】まい
② 書いてみて、どうでしたか。
ア とてもむずかしかった。
イ わずかしかった。
ウ かんたんだった。
エ とてもかんたんだった。
それは、なぜですか。
[]

2 【感そう文2】は、「ものがたりを読む時のポイント」にしたがって「まいごのかぎ」を読んで、「感そう文の組み立て」をして、「感そうのことば」をきんこうになら書きました。
① げんこうようしでなんまい書きましたか。【】まい
② 書いてみて、どうでしたか。
ア とてもむずかしかった。
イ わずかしかった。
ウ かんたんだった。
エ とてもかんたんだった。
それは、なぜですか。
[]

3 「まいごのかぎ」のべんきょうで、2回感そう文を書きました。書いてみてどうでしたか。思ったことをじゆうに書いてください。
[]
[]
[]

図5 小学生へのアンケート

「まいごのかぎ」の感想文についてのアンケート

学籍番号【】 名前【】

1 読書感想文を書いてどうでしたか。1つに○をつけてください。
ア 簡単だった イ まあまあ簡単だった ウ 少し難しかった エ 難しかった

2 1でウとエに○をつけた人だけ答えてください。それは、なぜですか。(複数回答可)
ア 感想文に何を書けばいいかわからなかったから イ 書く分量がわからなかったから
エ 感想文を今まであまり書いたことがないから エ その他()

3 感想文は、何字書きましたか。【】字

4 感想文には、どのような内容を書きましたか。書いた内容に当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

	書いた内容	○
はじめ	本との出会い	
	判限の感想	
	本文からの引用	
	心に響いた言葉	
中	一番伝えたいこと	
	主人公の登場と読後の寛容	
	題名を読んでの感想	
	その他()	
	登場人物からの影響	
	登場人物への読家	
	事件からの影響	
	主人公の性格や自分の性格との結びつけ	
	自分の読書経験との関連(今まで読んだ本との違いなど)	
	現実の世界との関連	
	作者との関連	
	自分の経験との比較	
おわり	自分の考えとの比較	
	自分が主人公だったらどうしたか	
	今まで自分になった考え	
	その他()	

図6 短期大学生へのアンケート

が、感想文の要素が児童に定着をしていないことがうかがえる。

③ 感想語彙の数

感想文を書く時には、適切でかつ豊かな感想語彙を使っているほど、感想文の表現が広がる。そこで、感想語彙数を調べたら、次の表3のとおりである。

表3 初発の感想の感想語彙数

個数	人数	割合 (%)
0	5	9
1	12	20
2	10	17
3	9	16
4	6	10
5	4	7
6	4	7
7	2	3
8	1	2
9	3	5
10	1	2
18	1	2

感想語彙数は、4個以下で全体の72%を占める。特に、多かったのが、「ふしぎ」と「すごい」という感想語彙である。その言葉を繰り返し使い、1場面の粗筋+「ふしぎだなあ」、2場面の粗筋+「ふしぎだなあ」、3場面の粗筋+「ふしぎだなあ」という感想文がとて多かつた。これは、初発の感想文に見られる書き方の傾向の一つである。

4. 2 初発の感想文を書いた後のアンケートの結果と考察

初発の感想文を書いた感想と理由についてアンケートを取った。結果は、次の表4である。

表4 初発の感想文の感想

	人数	割合 (%)
ア とても簡単だった	4	7
イ 簡単だった	4	7
ウ 難しかった	42	72
エ とても難しかった	8	14

やはり、「エ とても難しかった」「ウ 難しかった」と答えた児童が、全体の86%にも上つ

た。ア～エまでの理由としては、次の表のとおりである。

表5 「ア とても簡単だった」の理由

理由	人数
思ったことを書いたから	2
場面の順番に書いたから	1
読んで分かりやすかったから	1

表6 「イ 簡単だった」の理由

理由	人数
思ったことを書いたから	1
すぐ思いついたから	1
主人公の気持ちが多かつたから	1
主人公の気持ちの変化が多かつたから	1

「ア とても簡単だった」「イ 簡単だった」と回答した児童は、理由を見ると感想文を書くことにあまり抵抗感がない児童である。また、「場面の順番に書いたから」の「場面の順番どおり」の感想文の書き方は、ほとんどの児童に当てはまった。これは、感想文を書く時に、構成をせずに書いたと考えられる。

表7 「ウ 難しかった」の理由

理由	人数
何を書いたらいいのが多かつたから	17
書き方が多かつたから	8
どんな話が多かつたから	6
勉強をしていないから	5
主人公の気持ちの変化が多かつたから	4
その他	4

表8 「エ とても難しかった」の理由

理由	人数
何を書いたらいいのが多かつたから	3
書き方が多かつたから	2
主人公の気持ちの変化が多かつたから	1
その他	2

「ウ 難しかった」「エ とても難しかった」と回答した児童は、「何を書いたらいいのが多かつたから」「書き方が多かつたから」という理由が多かつた。また、学習していないので、主人公の気持ちの変化が多かつたという理由もあつた。

では、実際に児童がどのような感想文を書いたのか見てみよう。前述のとおり、ほとんどの児童が次の【初発の感想文 A】のように、「すごい」、または、「ふしぎ」という感想語彙を繰り返し、物語の最初の場面から感想を述べている。これは、感想文を書く時に、構成を行っていないことや豊かな感想語彙に触れることが少なかつたからだと考えられる。(~~~~や色付き部は考察に関係のある箇所)

【初発の感想文 A】

ほくは、「まいごのかぎ」を読んで、さくらの木からどんぐりがおちてきて、ふつうは、そうならないからすごいなあと思いました。ベンチが歩いたからカギをさして、やわらかくなって歩いていたのかなと思いました。あじの開きにカギあながあったのもすごいけど、カギをさしてとんだのもすごいなと思いました。バスでいのとうちゃく時間の数字が、ありみたいにあるきだしてうんてんしがいるのに、バスががっそうしはじめてすごいなと思いました。

次の【初発の感想文 B】は、「なぜ」や「知りたい」という言葉を繰り返し使い、これから学びたいことを書いている。これは、「感想文」という様式を理解しないことが原因ではないかと考えられる。

【初発の感想文 B】

ほくは、なぜ物や死んでる生きものにかぎあながあるのかふしぎに思いました。それと、なぜ、死んだ生きものにたましいがやどるのがとてもふしぎでした。

でも、これがファンタジーという本がこんなのかと思ったけれど、とても「まいごのかぎ」という本は、ファンタジーの絵本になっていると思いました。もうちょっと、ファンタジーという意味を知りたいです。

かぎあなは、なぜ分りにくいところにあるのか知りたいです。バスがもとの路線に戻った時、小学生のりい子は、くすくすわらわれて消したうさぎがバスにのっていたのか、それをど

のしりたいよりもさいしょに知りたいです。

なぜ、いすは、公園にねころんだのか、なぜ、魚はそらにとびたかったのか知りたいです。

次の【初発の感想文 C】は、感想文で何を一番伝えたいのか不明である。また、自分が主人公ならどんなことをするのかということを中心に書いている。これも、「感想文」の様式を理解しておらず、構成をせず、感想文を書いたからであると考えられる。

【初発の感想文 C】

ほくは、かぎを見つけたら、かぎあなをさがします。そして、かぎあなをさくらの木にさしこみます。そして、うんがよくどんぐりがふつれば、これをためておきます。そして、どんぐりがじゅうぶんあつまったところで、どんぐりがどれくらいとれたのかきょうそうをします。であわないなら、また、かぎあなをさがします。そして、ベンチにかぎあながあったら、さしこみます。そして、ベンチがうごくならばめいれいして、いまでもどって、ペットとしてかいたいです。でも、りいちゃんがかわなかったベンチはおかあさんにおこられるし、まちのものだからです。そして、あわなかったからまたさがします。そして、また、みついたら、さしこみます。そして、それがあじのひらきだったら、ぜったいにさしこみます。だって、いままでぜんぶたのしいから。そして、あじがとんだら、あじにつかまっとうみにいきます。そして、しんかいにいきます。

【初発の感想文 D】は、半分以上が、粗筋である。

【初発の感想文 D】

ほくは、りいちゃんとにていて、一人でかえってました。三時間目の時間にりいちゃんは、みんなで学校のまわりの絵をかきました。りいちゃんは、こうしゃが、なんだかさびしかったので、その手前にかわいうさぎをつけ足しました。ほくもりいちゃんににてい

て、家で絵をかいていたら、兄ちゃんにわらわられてはずかしくなりました。

りいちゃんがかえっているとちゅうに木を見つめました。木を見たら、かぎあながあって、りいちゃんももっていたかぎとそっくりでした。りいちゃんはそのかぎをさしてしまいました。そのしゅんかん「あっ」思わずさげびました。木がぶるっとふるえたのです。そうして、えだの先にみるみるたくさんのつぼみがふくらんでいったかと思うと、ばらばら何かがふってきました。「どんぐりだ。」りいこはひめいをあげます。さくらの木のどんぐりの実がなくなつて。ぼくもかえっているときに、どんぐりがあたまに十こおちてきました。

4. 3 第2回目の感想文の結果と考察

(1) 第2回目の感想文の趣旨

第2回目は、図1の学習指導案のように、二次において、ワークシート2で読解のまとめと感想を書いた。そして、3種類の感想文や構成のモデルを参考にして、構成を考え、感想文を仕上げた。感想語彙も参考にさせた。

(2) 第2回目の感想文の結果と考察

① 第2回目の感想文の字数

第2回目の感想文の字数を調べた。第2回目の感想文を書いた児童は57人であった。結果は、次の表9のとおりである。

表9 第2回目の読書感想文の字数

字数	人数	割合 (%)
0~100	0	0
101~200	1	2
201~300	9	15
301~400	5	9
401~500	11	19
501~600	8	14
601~700	8	14
701~800	10	17
801~900	1	2
901~1000	2	3
1001~1100	2	3
1101~1200	0	0
1201~	1	2

第2回目に書いた読書感想文の字数は、300字以上が83%である。一番短い字数は、169字で一番長かったのは、1202字であった。表1と比べると長く書けるようになっている。

表10 第2回目の感想文の要素

感想の要素	人数	割合 (%)
1 粗筋	57	100
2 題名の感想	11	19
3 本との出会い	12	21
4 今まで読んだ本との比較	9	15
5 主人公の性格	3	5
6 主人公の成長	0	0
7 主人公の最初と最後の変化	20	35
8 自分の経験	7	12
9 自分が主人公だったら	3	5
10 これから活かしていきたいこと	28	49
11 今までになかった考え	14	25
12 これからやってみたいこと	14	25
13 その他	12	21

第2回目の感想文の要素を見ると、表10のように、粗筋が100%は初発の感想文と変わらないが、「主人公の成長」以外の要素を含めて書いている。特に、「主人公の最初と最後の変化」については、授業で扱っており、書きやすかったと考えられる。また、「これから活かしたいこと」も約半数の児童が書いており、この項目も授業で扱ったためと考えられる。第1回目には、ほとんど見られなかった「本との出会い」「今まで読んだ本との比較」など、本を対象とした感想を書く児童がいたことは、感想文の構成のモデルに感想文の要素を示したからである。

表11 第2回目の感想文の感想語彙数

個数	人数	割合 (%)
0	0	0
1	18	31
2	20	35
3	10	17
4	5	9
5	1	2
6	1	2
7	2	4

第2回目の感想語彙は、4個以下が全体の92%を占める。感想語彙表を配布したが、感想語彙があまり広がらなかった。

4. 4 第2回目の感想文を書いた後のアンケートの結果と考察

第2回目の感想文を書いた感想と理由についてアンケートを取った。結果は、表12のとおりである。

表12 第2回目の感想文の感想

	人数	割合 (%)
ア とても簡単だった	12	21
イ 簡単だった	36	63
ウ 難しかった	6	11
エ とても難しかった	3	5

「ア とても簡単だった」「イ 簡単だった」と合わせると84%であった。初発の感想文では、「エ とても難しかった」「ウ 難しかった」と答えた児童が86%であったため、逆転している。

次に、その理由を見てみよう。

表13 「ア とても簡単だった」の理由

理由	人数
組み立ての例があったから	3
ファンタジーが分かったから	2
下書きがあったから	2
物語がよく分かったから	1
感想文のモデルがあったから	1
付箋にメモをしたから	1
主人公の気持ちの変化が分かったから	1
その他	1

表14 「イ 簡単だった」の理由

理由	人数
主人公の気持ちの変化が分かったから	5
組み立ての例があったから	7
感想文のモデルがあったから	5
下書きがあったから	3
構成メモがあったから	3
何を書けばいいのかが分かったから	2
勉強したから	2
簡単だったから	2
1回目に書いていたから	2
その他	3

理由としては、「モデルが示されていたから」「学習をして理解したから」が多かった。それ以外には、何を書けばいいのかが明確化したことが挙げられている。これらは、ワークシート2で主人公の気持ちの変化などをまとめたり、感想文や構成を3種類もモデルとして示したりしたことが功を奏したと考えられる。

表15 「ウ 難しかった」の理由

理由	人数
何を書けばいいのかが分からなかったから	1
書き方は分かったけど、自分で書くのが難しいから	1
付箋にあまり書けなかったから	1
途中で分からなくなったから	1
詳しく調べて詳しく書いたから	1
メモを書いたので簡単だったから	1

表16 「エ とても難しかった」の理由

理由	人数
考えすぎたから	1
1回目より2回目の方が難しかったから	1
下書きが3枚だったのに清書は2枚になったから	1

理由を見ても、「初発の感想文」で多くの児童が明記していた「何を書いていいのかが分からなかったから」「書き方が分からなかったから」というのは見当たらなかった。

次に感想文を2回書いての感想を聞いた。結果は次の表17のとおりである。

表17 感想文を2回書いた後の感想

理由	人数
主人公の気持ちの変化を知っただけですらすら書けた	15
2回目の感想文が簡単で楽しかった	13
2回目がたくさん書けた	12
組み立ての例があったので書けた	9
組み立てが上手に書けた	4
他の本でも感想文を書いてみたい	4
他のファンタジーの本を読んでみたい	4
難しくてびっくりした	9
最初は「まいごのかぎ」を知らなかった	1
その他	10

「その他」には、「感想文をどう書けばいいのか分かった」「ファンタジーの作品が好きになった」などを記述していた。

表13, 14と同様に「学習を理解したこと」や「モデルが示されたこと」を挙げている。「楽しかった」「たくさん書けた」「他の本でも書いてみたい」などの意欲面が挙げられていることは、特記すべきことである。

では、実際に第2回目の感想文を見てみよう。初発の感想文と違って、言いたいことが明確であり、自分の経験を巧みに挿入している。

(~~~~や色付き部は考察に関係のある箇所)

【第2回目の感想文E】

「みんなも好きに走って見たかったんだね。」っていう言葉を聞いて、「たしかに。」と思いました。なぜなら、わたしだっていつも同じことをするのは、いやです。毎日、ちがうことをすると、「楽しい。」って思います。それに、ベンチとかバスいがいも好きなことしたいから、かぎを人間にわたして、好きなことしたかったのかなあとという気持ちとりに、「自分がしたいことしていいんだよ。」っていう気持ちでわたしたんじゃないかなあと思いました。

私とりにことになっているところは、まわりを気にしちゃうところです。なぜかという、まわりから見られたり、わらわれたりしたらはずかしくてけしたり、そのつづきが書けなかったりするところは、私にもあります。りにことしてい

るんじゃないかなあと思いました。たとえば、私が発表するとき、わらわれたら自しんがなくなってしまう。りにこも白い校しゃに、かわいいうさぎをつけ足したら、友だちにわらわれて、自しんをなくしちゃったんだと思います。自しんをなくしちゃうところがにっていると思いました。

さいごの場面で、りにこが「自由にしてよかったんだ。」と気づいてくれてうれしかったからさいごにうさぎがでてきたんだと思います。だって、わたしもりにこが、自分に自しんをもっていいことが、つたわったら、うれしいです。うさぎがでてきて、大きく手をふったところをりにこに気づいてほしいです。わたしがりにこだったら、「よけいなことじゃなかったんだ。」って思います。りにこは、よけいなことじゃないって気づけて、うれしかったのかもしれません。

私は、できるようにになりたいと思ってくり返しががんばったことがあります。それは、鉄ぼうです。私は、さか上がりがいいつでもできるようになりたくて、練習しています。たまにできるけど、スムーズにはできなかったから、さか上がりができる友だちのことをいいなあと思っていました。だから、まけないように毎日練習しています。「りにこちゃんもがんばっていたから、本気でがんばろう。」と思ってがんばってたら、いつかさか上がりがいぜったいできるので、これからは、りにこちゃんみたいにがんばろうと思いました。

【第2回目の感想文F】

自由に生きていいんだ。ものも生物もみんな自由でいいんだ。くすくすわらわれたって、そんなのその人をむしして、その人からさっければいいんだ。

りにこがかいたうさぎがなんででてきたかという、それはりにこのきもちがもどってきたからです。「これ、ぜんぶよけいなことじゃなかったんだ。ぎやくにいいことだったのか。なあんだ。」と思えたから、このお話のさいごに、また、うさぎがでてきたのだと思います。

りいこのようにくりかえしががんばってできるようになりたいと思っています。それは、バレーボールです。どうしてかという、アタックとトスがぜんぜんだからです。まず、アタックはせがひくくてはいらないし、トスは指の先でやってしまうので、できません。だから、いえでれんしゅうをしています。いつかレギュラーになってしあいにでられるようになりたいです。

このファンタジーを読んで、りいこからわらわれてもそのままいいということとだめなこともぎやくにいいときもありました。ほくも、りいこみたいにすごしたいです。

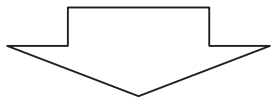
では、同じ児童がどのように変容したのかを見てみよう。初発の感想文では「おもしろい」が中心になっているが、第2回目の感想文では、読解が深くなり、感想も自分との比較や経験を入れている。

【Gの児童の初発の感想文】

わたしは、「まいごのかぎ」を読んで、おもしろいと思いました。理由は、公園のベンチのかぎあなにかぎをさしこむとつぜんベンチが歩き出し、ひだまりにねそべったからです。わたしもベンチが歩き出したところを見てみたいです。

わたしは、りいこちゃんをみてかわいそうと思いました。理由は、学校の帰り道をしょんぼりと悲しそうに帰っていたからです。わたしもいけないうちをしたら、悲しいからりいこちゃんもかわいそうと思いました。

わたしは、「まいごのかぎ」をもっとくわしくしりたいです。わたしもりいこちゃんがたいけんしたことをたいけんしたいと思いました。



【Gの児童の第2回目の感想文】

わたしは、「まいごのかぎ」を読んで、あんなに自分をせめていたりいこが、自分がだめなことをしていないと気づいて、明るい気持ちに

なったりいこの行動が心にのこりました。だって、わたしは、じぶんから気づけないかもしれないからです。

わたしは、この物語を読んで、読んだ人に一番伝えたかったことは、「たまには、よけいなことをしてもいいんだよ。」ということだと思います。だから、わたしも、おちこまないで、元気にいたいと思います。

わたしは、お母さんのお手伝いをした時、しっばいをしておこられる時があります。よけいなことをしたからかなあとと思います。でも、この物語を読んで、何回もチャレンジしようと思いました。しっばいしても続けることで上手になったり、ほめてもらえたりすることがあるかもしれません。

わたしはできるようになりたいと思ってくり返しがんばっていたことがあります。それは、鉄ぼうの前回りです。練習している時には、かなしい気持ちでした。なぜなら、早くできるようになりたいのに、できなかったからです。でも、練習してできた時は、うれしかったです。だから、これからも、いろいろなことにチャレンジしたいです。

うさぎは、「ほくをつけ足したことは悪いことじゃないんだよ。」と言いたかったから、うさぎがでてきたいと思います。りいこは、自分が悪いことをしていると思ひ込んでいたけど、さいごは、たまにはよけいなことをしてもいいんだなと気持ちが変わったところが心に残りました。

5 短期大学生による「まいごのかぎ」の初発の感想文とアンケートの結果及び考察

5. 1 初発の感想文の結果と考察

(1) 初発の感想文の趣旨

小学3年生と同じ教材文の初発の感想を書いてもらい、比較をする。

(2) 初発の感想文の結果と考察

① 初発の感想文の字数

字数制限無しで感想文を書いてもらった。感想文を書いた学生数は、41名だった。字数に

関しては、次の表18のような結果である。

表18 短期大学生の初発の感想文の字数

字数	人数	割合 (%)
0~100	1	2
101~200	2	5
201~300	11	27
301~400	8	20
401~500	7	17
501~600	3	8
601~700	4	10
701~800	2	5
801~900	1	2
901~1000	0	0
1001~1100	1	2
1101~1200	1	2

短期大学生は、201~300字までが一番多く、約1/4を占めた。一番少なくなくて92字、一番多くて1200字である。小学生に比べるとばらつきが大きい。

② 感想語彙数

表19 短期大学生の感想語彙数

個数	人数	割合 (%)
0	0	0
1	6	15
2	10	24
3	11	28
4	4	11
5	1	2
6	5	12
7	1	2
8	2	4
12	1	2

感想語彙数は小学生とあまり変わらなかった。

(3) 実際に書いた短大生の「まいごのかぎ」の感想文

次の感想文Hは、粗筋に終始している。

【短期大学生が書いた感想文H】

この本のあらすじとしては、主人公のりいこは凶工の時間にみんなで学校の絵を書いています。その時に校舎がさみしいと感じ、うさぎ

の絵を付け足したことで、友達から馬鹿にされてしまいます。それが恥ずかしくて、白い絵の具でうさぎの絵を消します。その時に頭の中になんかうさぎがどこにもなくなった感じがしてうさぎに悪いことをしたと感じていました。思い出していくうちにどんだんうつつむいていって元気がなくなってしまいました。その時に、ヤブガラスの中で何かが光りました。それはこがね色のカギでした。それを手に取ったりいこは落とし物だと思い、交番に届けに行くことにしました。交番に行く途中、大きな桜の木に鍵穴があるのを見つけました。鍵を差し込んでみると木が震えて、どんぐりが落ちてきました。びっくりして急いで鍵を抜き、交番に向かいました。次に公園を通り抜けようとする、ベンチにも鍵穴が空いていました。鍵をさすと大きな犬のように動き出しました。りいこはまたびっくりして鍵を抜きました。次は、魚の開きを一中略〜うれしくなって手を振り返しているうちに持っていたはずの鍵はなくなっていました。

この本を通して、作者が伝えたいメッセージは自分のせいでひどいことをしてしまったと思っても実は相手はそんなことを思っていないよということなのではないかと思いました。僕もよく「自分のせいで…」などネガティブな言葉を口にしてしまうことがあるので、この本を読んでみて、その心配をする必要はあまりないということに気がきました。さらに桜の木からどんぐりが落ちてきたように、常識にとらわれない柔軟な考えが必要だということに気がきました。

次の感想文Iは、主人公の性格や感想を中心に感想文にまとめている。

【短期大学生が書いた感想文I】

「まいごのかぎ」を読んで、最初に感じたことは、りいこが学校でおきた出来事を後悔し、悔やんでいるところを読み、りいこはとても感受性の豊かな優しい女の子だと思いました。うさぎのことも心配してあげているりいこのひたむきでまじめで優しい姿に、りいこのことが

好きになりました。

物語はそんなりいこがまいごのかぎを見つけ、さまざまなものについているかぎあなにカギをはめていき、まいごのかぎを鍵穴にはめてあげるといふ物語です。りいこがかぎをはめていく途中で出会う様々なハプニングにりいこが遭遇し解決していくということであり、りいこの考え方が次第に変わっていき、だんだん成長していくように感じました。はじめは、心配になったり、うらやましくなったり、悲しくなったり、そんなことばかり考えていたりりいこが、考え方を少し変えると、物事がいっぺんして、楽観的に、楽しく感じるようになります。それは、りいこがあらゆる視点から物事の本質をつかむことができるようになったということではないでしょうか。りいこが出あってきたハプニングの数々、そして、りいこがそのハプニングに対し、対応していった考え方の変容は、りいこの人生の中できらきらと輝き、これからの毎日をより豊かにしていくものになっていくんだろうなと考えました。

5. 2 初発の感想文を書いた後のアンケートの結果と考察

(1) 問題 1

① 問題の趣旨

高等学校までには、必ずと言っていいほど、物語の読書感想文を書いた経験はあるはずである。今回の調査においては、小学校の教材文であること、教材文はファンタジーであること、字数の制限はしなかったことについて、感想文を書くことの難しさを問うた。

② 回答率及び考察

表20 短期大学生の感想文後の感想

	人数	割合 (%)
ア 簡単だった	0	0
イ まあまあ簡単だった	3	7
ウ 少し難しかった	22	54
エ 難しかった	16	39

全体の93%の学生が、小学3年生の教材でも感想文を書くことが、難しかったと答えてい

る。

やはり、感想文を書くという行為は、ハードルが高いことだと分かる。それでは、どんなことが難しいのか見てみたい。

(2) 問題 2

① 問題の趣旨

ここでは、左記の「ウ 少し難しかった」と「エ 難しかった」と答えた人だけ、なぜ難しかったのかを問うた。

② 回答率及び考察

表21 難しかった理由

	人数	割合 (%)
ア 感想文に何を書けばいいのかわからなかったから	28	68
イ 書く分量がわからなかったから	16	39
ウ 感想文を今まで書いたことがないから	9	22

短期大学生が、一番難しいと感じているのは、感想文に何を書いていいのかわからないということで、68%もいた。今まで感想文をあまり書いたことがないと答えた短期大学生は、22%なので、8割弱は今まで書いた経験があるということである。しかし、感想文の要素が把握できていないことに驚いた。さらに、本教材の「まいごのかぎ」はファンタジーであるため、感想文の要素を考えることがハードルが高かったと考えられる。

「その他」では、ファンタジーすぎてよくわからない、何を書いているのかわからなくなった、誰の視点で書くのかわからなかった、どの順番で書くのか迷ったなどがあつた。やはり、ファンタジーを読んで感想文を書くということの難しさや感想文の構成の曖昧さが原因として挙げられていた。

(3) 問題3

① 問題の趣旨

感想文にはどのような内容を書いたのかを問うた。

② 回答率及び考察

表22 感想文の要素

	人数	割合 (%)	
はじめ	本との出会い	4	10
	初読の感想	17	41
	本文からの引用	17	41
	心に一番残った言葉	8	20
	一番伝えたいこと	11	27
	主人公の最初と最後の変容	21	51
	題名を読んだ感想	5	12
中	登場人物からの影響	18	44
	登場人物への提案	1	2
	事件からの影響	15	37
	主人公の性格や自分の性格との結び付け	16	39
	自分の読書経験との関連 (今まで読んだ本との違いなど)	2	5
	現実世界との関連	4	10
	作者との関連	0	0
	自分の経験との比較	10	24
	自分の考えとの比較	7	17
	自分が主人公だったらどうしたのか	7	17
	今まで自分になかった考え	15	37
	その他	2	5
	終わり	自分が成長したこと	8
これからの生活に活かしたいこと		19	46
やってみたくなったこと		3	7
自分が本を読んで考え方や生き方が変わったこと		17	41
その他		4	10

感想文の「はじめ」には、主人公の最初と最後の変容、初読の感想、本文からの引用を書いた学生が多かった。その他では、「あらすじ」「本の紹介」「挿絵の感想」が挙げられた。「中」の「その他」では、「主人公の気持ちの変化」「主人公が不思議な体験をした理由」が挙げられた。「終わり」の「その他」では、「この物語のおもしろさ」「注目して読みたいところ」「題名

の意味」「疑問に思ったこと」が挙げられた。

6 物語の授業における感想文を書くための今後の展望

学習指導要領においては、感想文を書くことは、「読むこと」の言語活動に位置付けられている。小学生も短期大学生も、「読むこと」において、物語を読んで感想文を書くということに苦手意識が高かった。原因としては、両者とも感想文の要素が分からない、主人公の気持ちの把握や気持ちの変化が分からないなどが挙げられた。これは、読解している時と感想文を書く時に隔たりがあり、それを繋ぐことが必要であることと感想文の要素を明確に示すことが必要であった。

そこで、今回は、小学生に対しては、第2回目の感想文を書く際の方策として、「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」を活用した。そのことで、二次の読解を確認し、振り返ることができ、それが感想に繋がり、感想文を書く時の橋渡しの役割を果たした。また、感想文や構成のモデルを3種類用意することで、感想文や構成の書き方の幅が広がった。

「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」の内容については、フィンランド国語の教科書を参考にして、23の感想の要素を作成した。今後は、説明文を読んだ感想文についても探っていきたい。

7 引用文献

- 1) OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2018)
- 2) 全国学力・学習状況調査報告書 (令和3年度)
- 3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申) 平成28年12月21日
- 4) 第65回学校読書調査, 全国学校図書館協議会, 2019年
- 5) 学習指導要領 (平成29年度版)
- 6) 「小学生の夏休みの読書感想文に関する調査」オンライン書店楽天ブックス, 2018年
- 7) 「夏休みに関する小学生の意識調査」ベネッセコー

ポレーション 進研ゼミ小学講座, 2021年

- 8) 名塚裕樹「新潟市立白山小学校における読書感想文指導の取組み」, 学校図書館第847号, 2021, pp 40～42
- 9) 高島和子「一人ひとりの思いや願いを大切にしたい読書感想文指導」学校図書館第761号, 2014, pp 57～59
- 10) 北川達夫『フィンランド国語教科書小学4年生』経済界, 2005年, pp91
- 11) 井上一郎『読解力を育てる！小学校国語 定番教材の発問モデル 物語編 アクティブ・ラーニング型授業づくりのヒント』明治図書, 2015, pp70

8 参考文献

- 12) 北川達夫『フィンランド国語教科書小学5年生』経済界, 2007年
- 13) 工藤順一『新かんたん！読書感想文—スラスラ書ける10の魔法—1・2年生用』学校図書株式会社, 2008
- 14) 成美堂出版編集部『スイスイ！ラクラク！！読書感想文小学3・4年生』成美堂出版, 2019年
- 15) 上条春夫『読書感想文がスラスラ書ける本小学5・6年生』長岡書店, 2014年

付記1：本研究は、令和3年度学長裁量経費をいただいで調査研究を行ったものである。

付記2：実際の調査は、熊本県、福岡県の先生方に依頼をし、授業を行ってもらった。御協力いただいた先生方に、ここに記して感謝申し上げます。